

# めだか大学通信 9号

2012/11/4 岡田 京子

やっと秋になったかと思うともう冬の気配です。10月の報告と12月24日1時～9時予定の「めだか大学クリスマス発表会」(仮称)をお知らせします。

10月5日 かねてからの計画通り、クッキングハウスのハッピーデーに参加しました。ハッピーデーとは、いつものレストランの夕食にお酒が参加？する日で、その後みんなで歌うタイムがあるということでしたので、もう五年前、クッキングハウス

が主催した笠木コンサートの時、ステージで歌った新潟の「ままや」と「クッキングハウス」の歌に感動した三宅さんが作った『うた』という歌を、いつか届けたいと思っていたことがやっと実現した日となりました。

そのほか、先月できた北海道千歳の渡辺日朗さんの(すみれ分教場)『ホームカフェ』も、渡辺さんがはるばる北海道から来られて届けられました。渡辺さんのこれからの人生の中に、クッキングハウスのような役割をする「ホームカフェ」を作るプランがあって、そんなこともあったのでした。無事終わってほっとしました。

10月7日 「つくり小屋」でした。

最近欠席が多くちょっと淋しいのですが、(欠席の人は必ず連絡くださいね。斉藤さんか稲川さんか小池さんの方へ)

今日も静岡から柴田鉄世さんが来られ、自作のみかんにみんなニコニコでした。それだけでなく「今朝作った」という、先日の娘に寄せる『あなたへ』の曲ができて嬉しかったです。とても素直な、なんとやはり彼らしい節回しがあって嬉しくなりましたが、二番からの言葉の入り方が難しく、みんなであれこれとやってみましたがあまりうまくいかず、宿題となりました。

三宅さんの『国民学校一年生』が大体まとまってきました。これは昔の同じ題名の歌と「練鑑ブルース」を替え歌にするプランで、みんなの意見を聞いてもう一度整理することとなりました。

10月12日「にんじん畑」さしあたって新しい作品のとりかかりはなく、渡辺ミヨちゃんが、ずっと昔に作った金子みすずの歌を持ってきました。それと前に希望が出ていた、6月30日の歌集の中から歌ってみたい、という歌を一人ずつリクエストして、『心の水の音』『はなみずき』『君にありがとう』『ハムケ』などを歌いました。

こうして、後返ってみんなで辿るというのもとても必要なことだと思います。

にんじん畑は、人数が少ないので、12月にはこれまで作ってきた歌を「大勢で歌ってもらってみる」ということをして見るのもいいのではないかと思います。

10月19日「うた小屋」 稲川さんが、この前の千賀子さんの詞につけた『七夕』の歌の前後、というか真ん中に、ピアノの曲を入れたものを聴かせてくれました。稲川さんは安達教室でピアノも習っているので、五音階でならばピアノの黒鍵

だけを使った曲を間に挟み、なんと大型の作品になりました。『七夕』の歌のところだけみんなで歌って後はピアノを聴く、という形もだんだん定着してくるようで楽しみです。そのほか稲川さんは、アイヌの「神謡＝カムイユカル」を土台にして作った歌を歌いました。これは伝統音楽を知る上ではとてもいい方法です。全部自分のフシにしてしまうのではなく、アイヌのフシの形や歌の様式を厳格に守りながら、言葉だけを自分のものに変えてみる、というやり方は「伝統音楽の伝承」にはとても大事な方法です。そのうち皆さんも試みて見ませんか。

それから、これまで出来ていたけれど、聴いたことがなかった作品を聴きあいました。中村由紀男さんの子守歌の二曲目、『君には何が見えるの』と小池さんの『お父さんに』を歌ってもらい、みんなでも歌いました。これらも12月に出してみたいですね。

10月20日 静岡県藤枝市へ。村上・今井・小林さんと行きました。私がこの96歳になられる、もと「ばあちゃん劇団『ほのお』」の大石さきさんの、『新しい出発を祝う会』に呼んでいただきましたので、静岡の柴田さんのみかん畑にみかん狩りに行くメンバーと一緒に出演しました。村上・今井・小林千賀子さんです。

この日も『石巻』をやりました。千賀子さんの、石巻に行ったときの短歌です。

「半年を 過ぎし日に立つ石巻 あの日の姿 さぞやと想う」 に始まり、

「また来るね 忘れないよと海を見る この土地はもう わが故郷に」

「かの旅の宿題いまだ出来ずおり かの地はすでに冬に入りしが」

で終わる十四首の中から十首を選んで、会場に集まった七十人ほどの方たちと一緒に歌いました。去年この現場に立った村上さんや、千賀子さんの話を聞いて歌いながら涙を流される方たちもたくさん居られました。

村上さんは例の『人間は笑うようにできている』の手踊り（もっといい名前をつけましょうね）の指導も磨きがかかってきて、会場が笑い顔で満ちあふれました。

今井さんはいつもの声でメンバーを助け、会場を助けてくれました。

一世代若い浜松の母ちゃん劇団『はらっぱ』の初々しい『さんねん峠』の上演も

あり、いい日を過ごしました。

こうして、みんなの作品やちょっとした出演が、自分の内側にも外側にも役立って行くのを見ることは嬉しいことです。これからも機会を見て声をかけますので時間がある限りお願いします。またそれぞれでも企画してください。小さい会でいいと思います。

12月は、6月とは少し違いますが、由紀男さんが言われたように、それぞれの新し鑄作品も聞き歌い合える魅力ある会にしたいと思います。やっとな本格的な秋となりました。

夏ボケを振り落としてスタンバイしてください。

個人的な補講をいたします。少しでも出来たもの、困ったことがあれば連絡ください。